

平成 29 年度病害虫発生予察情報 特殊報 第 1 号

平成 29 年 11 月 13 日
広島県西部農業技術指導所

1 病害虫名 オリーブアナアキゾウムシ *Pimeleocerus perforatus* (Roelofs)
(*Dyscerus perforatus* (Roelofs))

2 発生作物 オリーブ

3 発生経過

- (1) 平成29年7月、江田島市大柿町のオリーブ栽培ほ場において、樹勢低下及び枯死したオリーブ樹に、樹幹樹皮下を食害した痕が確認されるとともに、根元にゾウムシを確認した。
- (2) このゾウムシについて、東京農業大学農学部の小島弘昭教授に診断を依頼したところ、オリーブアナアキゾウムシと同定された。
- (3) 本種は日本在来種で、イボタノキやネズミモチなどを寄主として生息していたと考えられるが、国内へのオリーブの導入にともない害虫化し、問題とされるようになった。昭和32(1957)年には香川県をはじめとした西日本を中心に被害が確認されている¹⁾が、本県におけるオリーブ被害の確認は今回が初めてである。

4 形態、発生生態、懸念される被害など

- (1) 成虫は全体暗褐色で、剛毛が密生した部分は淡色に見える。口吻を除く体長は約14mm、口吻長約4mmで雌雄間に大きな差は見られない。老熟幼虫は体長約15mmで、無脚、頭部は茶褐色、胴部は乳白色で深いしわが多い。蛹は裸蛹で乳白色、体長約14mm。
- (2) 幼虫による食害は地際から地上40cmまでの高さに集中するが、地下部も被害を受けることがある。樹幹を取巻くように潜行食害するため、樹勢の低下や枯死を招く¹⁾。
- (3) 成虫は夜行性で、新芽や葉柄、新梢の樹皮を食害する。日中は樹幹地際部の凹所や枯草下に潜伏する^{1) 2)}。
- (4) 成虫は複数年生息し、飼育条件下では平均600~700日、最長で約1,000日の生息が確認されている³⁾。根元周辺の雑草や落葉下で越冬する⁴⁾。
- (5) 産卵は、幼虫による被害が集中する部位と同様、地際から地上40cmまでの高さに集中する¹⁾。
- (6) 産卵は、春から秋までの温暖な季節を通じて1日に1個もしくは2~3日に1~2個のペースで行われ、生涯産卵数は約200個になる³⁾。

5 防除対策

- (1) 幼虫被害部の孔からは多量の木屑が出ているので、見つけ次第捕殺する。
- (2) 根元周辺の落葉や雑草の下で越冬するので、樹の周辺は除草し、敷きわらなどを行わず裸地状態にする。
- (3) オリーブアナアキゾウムシに適用のある農薬として、スミチオン乳剤、アディオン水和剤、ダントツ水溶剤、ベニカ水溶剤、オリーブアナアキゾウムシ幼虫に対してバイオセーフがある。
(平成29年10月31日現在)

6 参考文献

- 1) 松沢寛ら (1957) 「オリーブアナアキゾウムシの防除に関する研究 I 被害実態調査 II 一般形態(外部)並びに経過習性」香川大学農学部学術報告, 8, 172-188
- 2) 市川俊英ら (1987) 「オリーブアナアキゾウムシ成虫の存在場所および行動の日周的・季節的变化」応動昆, 31, 6-16
- 3) 松沢寛ら (1959) 「オリーブアナアキゾウムシの防除に関する研究 IV 成虫の寿命並びに産卵能力」香川大学農学部学術報告, 10, 36-39
- 4) 市川俊英ら (1991) 「オリーブアナアキゾウムシ成虫の越冬場所」応動昆, 35, 181-187



図1 オリーブアナアキゾウムシ (成虫)



図2 オリーブアナアキゾウムシ幼虫による被害 (オリーブ)

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所・西部病害虫防除所 (〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-420-9662)
広島県立総合技術研究所

農業技術センター果樹研究部 (〒739-2402 東広島市安芸津町三津 2835 電話 0846-45-1225)

農林水産局農業技術課 (〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話 082-513-3585)

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>